CITIZEN®

取扱説明書

この時計は、バンドをのぞく全ての修理が「メーカー修理」となります。修理、点検の際は弊社お問い合わせ窓口へご依頼ください。

All parts of this watch, excluding the band, are to be repaired only by CITIZEN. Please have all inspections and repairs at a customer support center.

このたびは、シチズンウオッチをお買い上げいただきましてありがとうございます。
ご使用の前にこの取扱説明書をよくお読みの上、正しくお使いくださいますようお願い申し上げます。
なお、この取扱説明書は大切に保管し、必要の際にご覧ください。

また、シチズンホームページ（http://citizen.jp/）の
「**サポート**」→「**時計の操作ガイド**」→「**機種番号**」で操作説明がご覧いただけます。

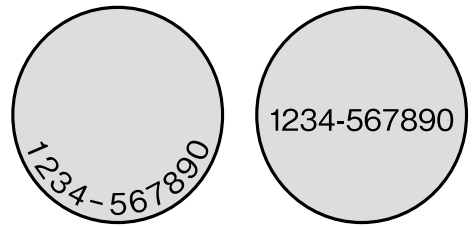
* モデルによっては、外装機能（計算尺、タキメーターなど）が搭載されている場合があります。取扱説明書に記載されていない外装機能の操作については、「**時計の操作ガイド**」をご覧ください。

機種番号の見かた

時計の裏ぶたに、アルファベットを含む4ケタと6ケタ以上からなる番号が刻印されています。（右図）

この番号を「側番号」と言います。側番号の先頭の4桁が機種番号になります。右の例では「1234」が機種番号です。

刻印の位置の例



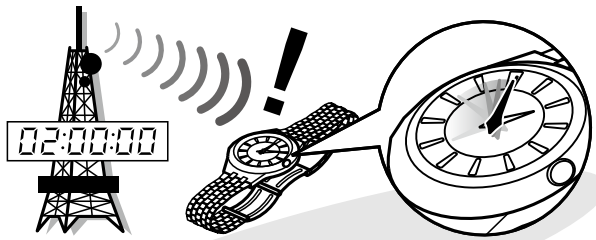
時計によって表示位置は異なります。

目次

この時計の特長.....4
Perfex（パーフェックス）..... 5
安全にお使いいただくために
—必ずお守りください.....6
すぐに時計を使う 14
各部の名称と主な働き.....16
ねじロックりゅうず・
ねじロックボタンの使いかた..... 18
回転ベゼルの使いかた..... 20
標準電波を受信して時刻・カレンダー
を合わせる.....22
電波を受信する前に
（基準位置の確認）..... 22
電波時計について 24
受信可能地域の目安 25
受信時の時計の置きかた..... 26
標準電波を受信する..... 28
電波の受信を中断する..... 31
電波受信中の時計の動き..... 32
受信結果を確認する..... 34
カレンダーを見る 36
パーペチュアルカレンダー 36
カレンダーを合わせる
（手動による合わせかた）.....38
時刻を合わせる
（手動による合わせかた）.....40

海外で現地時刻に合わせる（時差修正機能）.....42
ダイビングをするときに使う—ダイブモード.....44
ダイビングでのご使用における注意事項 44
ダイブモードを使う..... 50
充電について.....52
充電する..... 52
充電不足になると:充電警告機能 53
充電時間の目安..... 54
エコ·ドライブ..... 55
パワーセーブ機能 56
困ったときは.....58
基準位置を修正する 62
使用上の注意 64
防水性能について 64
二次電池の取り扱いについて..... 66
時計は常に清潔に..... 66
充電上の注意..... 67
携帯時の注意..... 68
時計を末永くお使いいただくために.....70
日常のお手入れ..... 70
保管について 71
夜光付き時計の場合には..... 71
保証とアフターサービス.....72
製品仕様 74
電波の受信が困難なお客様へ 76
お問い合わせ窓口.....77
機能早見表 78

この時計の特長

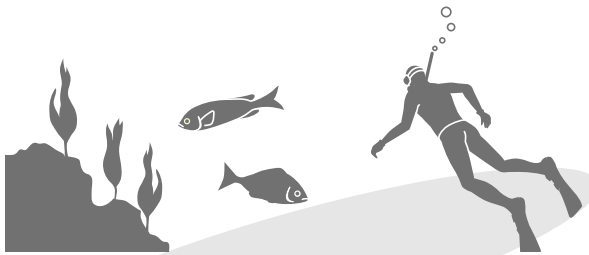


日本国内の正確な時刻情報を受信できる「電波時計」(→24ページ)

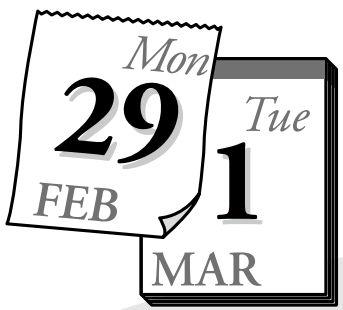
- 標準電波が受信できない地域での時刻·カレンダー合わせは、38～41ページをご覧ください。

Eco-Drive

光で動く、電池交換いらずの「エコ·ドライブ」(→55ページ)



ダイビングに安心な「ダイブモード」(→50ページ)



月末の日付修正がいらない「パーペチュアルカレンダー」(→36ページ)

海外で現地時刻に簡単に合わせられる「時差修正機能」(→42ページ)

Perfex パーフェックス

電波時計の正確性をサポートする「Perfex(パーフェックス)」

Perfex (パーフェックス)

この時計は、以下の3つの機能を一体化させることで、衝撃や磁気などの外部要因による針位置ずれを防止しています。

- □ **JIS1種耐磁性能:**日常生活で磁界を発生する機器に5 cmまで近づけても、時計の性能を維持します。
- □ **衝撃検知機能:**時計が衝撃を受けたときに秒針·分針·時針のずれを防ぐ機能です。
- □ **針自動補正機能(針の基準位置自動補正機能):**針の基準位置が適正であるか、一定時間毎に針位置をチェックします。ずれを検出した場合は自動的に、秒針·分針·時針を高速で補正し、正しい時刻を保持する機能です。

安全にお使いいただくために—必ずお守りください

お使いになる人や他の人への危害、財産への損害を未然に防止するため、必ずお守りいただくことを、次のように説明しています。

■ 表示内容を無視して誤った使い方をしたときに生じる危害や損害の程度を、次の表示で区分し、説明しています。

⚠危険	この表示の欄は、「死亡または重傷などを負う可能性が高い」内容です。
⚠警告	この表示の欄は、「死亡または重傷などを負う可能性が想定される」内容です。
⚠注意	この表示の欄は、「傷害を負う可能性または物的損害のみが発生する可能性が想定される」内容です。

■ お守りいただく内容の種類を、次の絵表示で区分し、説明しています。
（下記は、絵表示の一例です。）

	このような絵表示は、気を付けていただきたい「注意喚起」内容です。
	このような絵表示は、してはいけない「禁止」内容です。

《**ご使用になられる前に**—保護シールについて》

時計には工場出荷から販売店までのキズ防止のために、ガラス、裏ぶた、金属バンド、中留めの金属部分に保護シールをつけて出荷しているものがあります。このシールをつけたまま使用されますと、シールのすき間に汗や水分が入り込んで汚れによるかぶれや金属部分の腐食の原因となることがあります。必ずシールをはがしてご使用ください。

⚠危険

この取扱説明書をよくお読みいただき、取り扱いや操作方法、また表示や制限等を十分に理解し、正しくお使いください。
誤った使い方をしたり、表示する警告や注意の指示を怠ったりすると、死亡事故または重症事故につながる可能性があります。

⚠注意

ダイビングは危険を伴うスポーツです。ダイビングでのご使用にあたっては、本書で述べる時計の取り扱いを正しく理解し、それを厳守してください。
万一この取扱説明書に記載していない取り扱いをした場合には、時計が正しく機能しない場合があります。

⚠注意 人への危害を防ぐために

□ サウナなど時計が高温になる場所では、やけどの恐れがあるため、絶対に使用しないでください。
□ 激しい運動や作業をおこなうときは、ご自身や第三者へのけがや事故に十分ご注意ください。
□ 幼児を抱くときなどは、けがや事故防止のため、あらかじめ時計を外すなど十分ご注意ください。
□ ケースやバンドは直接肌に接しています。体質や体調によっては、皮膚にかゆみやかぶれを生じる場合があります。異常を感じたら、すぐに使用を中止して医師に相談してください。

かぶれの原因
• 金属･皮革アレルギー • 時計本体及びバンドに発生したサビ･汚れ･付着した汗など

⚠警告 ダイビングに関する一般的な注意事項

□ この時計をダイビングに使用する場合は、必ず資格を持ったインストラクターからダイビングの正しい訓練を受け、安全な潜水に必要な経験と技術を習得してください。

□ この時計の取り扱いと操作を完全にマスターしてください。
レクリエーションダイビングといえども、ダイビングには危険が伴います。不適切または不十分な訓練でダイビングを行うと、死亡事故または重症事故につながる可能性があります。

□個々のダイバーは、自分にあった安全のためのダイビング計画、遂行を責任持って行ってください。
この時計には減圧症を防ぐ機能はありません。また、個々の使用者の生理的な変化や、その日の体調の差異をチェックすることはできません。
減圧症の発症には体調が大きく関与しているため、その日の体調によって減圧症となる危険の度合いは異なります。病気、疲労、睡眠不足、二日酔いなど体調の悪い場合にはダイビングを避けることをおすすめします。

⚠危険 ダイビングでのご使用における注意事項

□**この時計には減圧潜水を表示する機能はありません。**
この時計を使用して減圧潜水は行わないでください。

⚠警告 ダイビングでのご使用における注意事項（つづき）

□この時計をダイビングに使用する場合は、他のダイビング機器（ダイブテーブル、ダイバーズウオッチ、残圧計、水深計など）を必ず併用してください。
大気の急激な変動や水中の温度変化などが時計の表示や性能に影響を及ぼすことがあります。また、この時計が万一故障した場合に備えて、必ず他のダイビング機器を併用してください。

□万一の時計の故障や、誤った設定での使用による事故を防止するために、毎回のダイビングの前に必ず時計の全ての機能が正しく動作しているか確認してください。
特に、十分に充電されているか、充電警告機能（53ページ）が働いていないかを必ず確認してください。

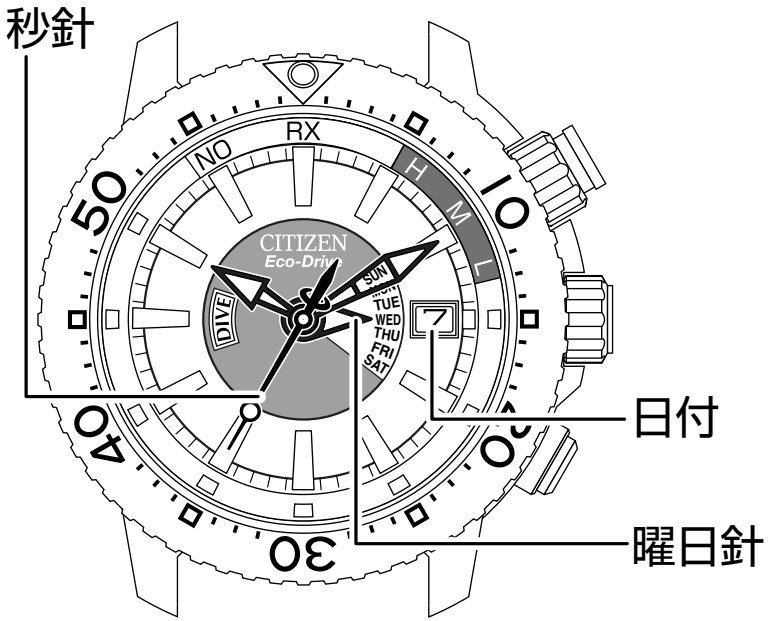
□ この時計を使用してのダイビングは、水温0℃～+50℃でのレクリエーションダイビング（無減圧潜水）に限られます。
次のダイビングには使用しないでください。
- 上記温度範囲以外でのダイビング
- 減圧潜水
- ヘリウムガスを使用する飽和潜水

□ 安全のため、無減圧限界時間に対して余裕を持ったダイビングを行ってください。

□ 健康に重大な影響を及ぼす可能性がありますので、スキューバダイビングの後のスキンダイビングは行わないでください。
この時計には、スキューバダイビングとスキンダイビングを区別する機能はありません。

すぐに時計を使う

時計をお使いいただく前に、次のことを確認してください。



充電状態の確認

秒針の動きを確認します。

秒針が1秒毎に動いている

秒針が2秒毎に動いている、または止まっている

時計が1秒運針するまで充電してください。
（充電について 52ページ）

開封後、時計の針が高速で回りだすことがありますが、パワーセーブ（パワーセーブ機能について 56ページ）が解除されているためで、故障ではありません。時刻が表示されるまでお待ちください。

時刻･カレンダーの確認

時刻･カレンダーの表示が正しいか確認します。

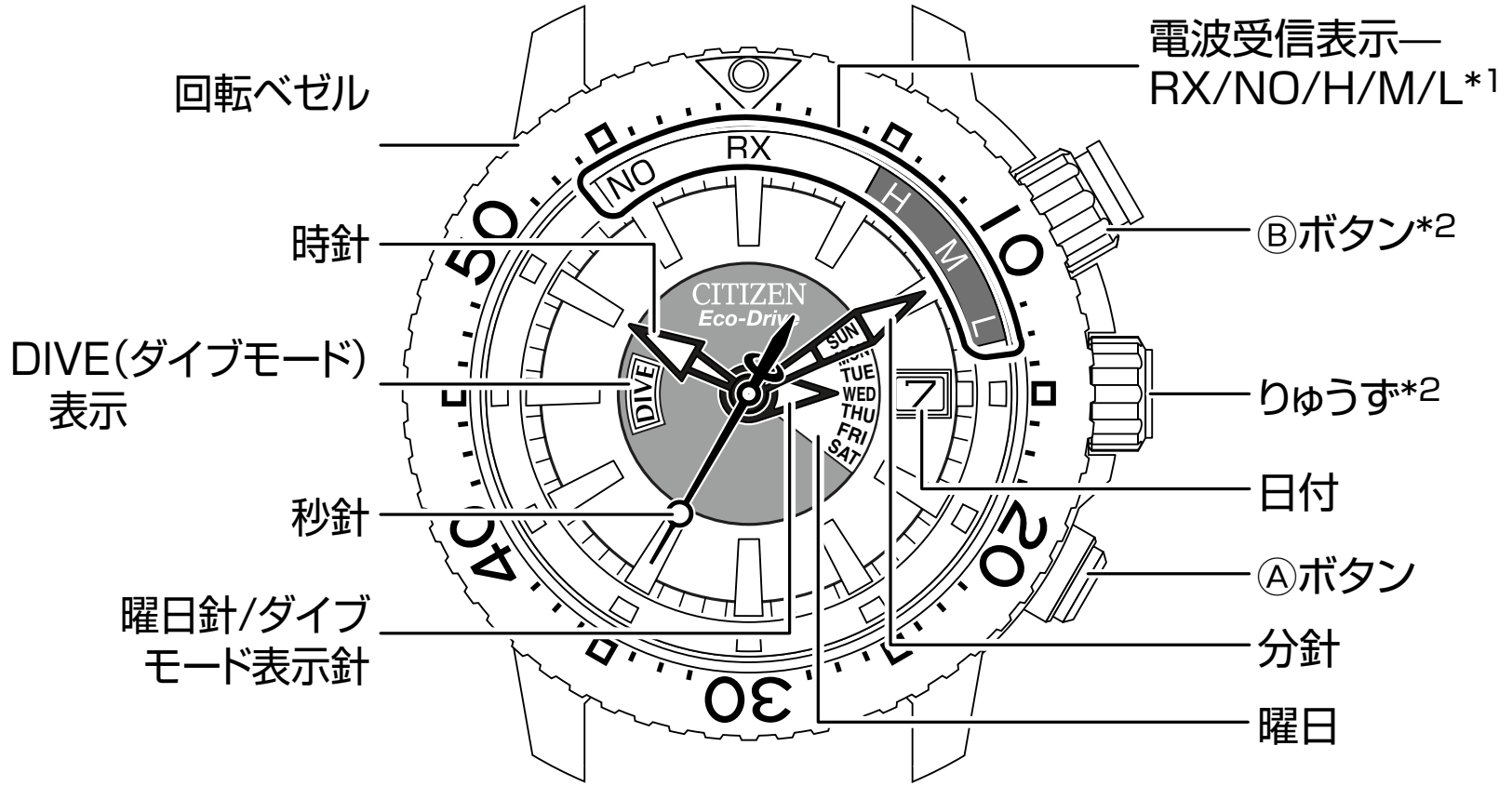
- カレンダーの見かたについては36ページをご覧ください。

時刻･カレンダーの表示が正しい → 時計をお使いいただけます。

時刻･カレンダーが正しく表示されていない → 次のいずれかの方法で時刻･カレンダーを合わせてください。

- 標準電波の強制受信（30ページ）
- 手動による時刻･カレンダー合わせ（38～41ページ）

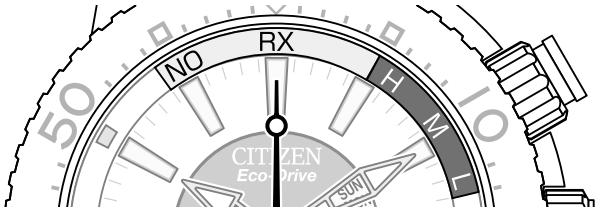
各部の名称と主な働き



お買い上げいただいた時計とイラストは異なる場合があります。

*1モデルによって電波受信表示を「秒針の先の部分」で指すものと、「秒針の尾の部分」で指すものがあります。

秒針の先の部分で指す場合



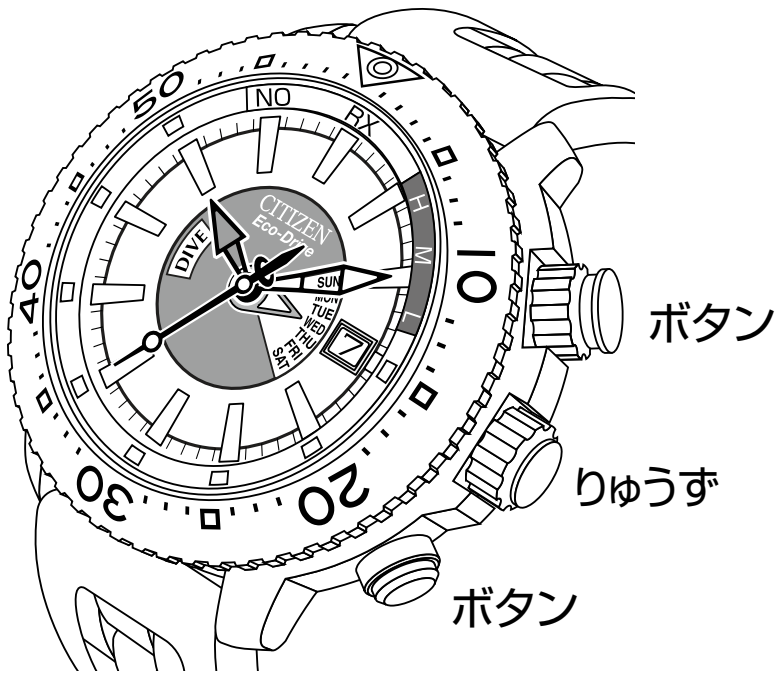
秒針の尾の部分で指す場合

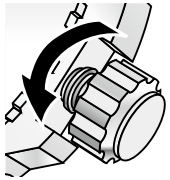
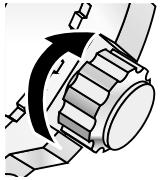
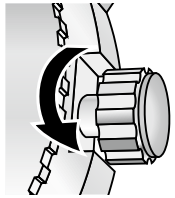
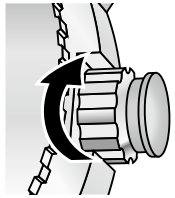
*2モデルによってりゅうずやⒷボタンがねじロック式の場合と、ねじロック式ではない場合があります。ねじロックりゅうず･ねじロックボタンの使いかたについては、18ページをご覧ください。

この取扱説明書は秒針の先の部分で指すもので説明しています。

■ ねじロックりゅうず・ねじロックボタンの使いかた

モデルによって、りゅうずやボタンがねじロック式の場合があります。時計を操作しないときにりゅうずやボタンをロックすることで、誤操作を防ぐことができます。時計を操作するときは、ロックを解除してください。



	ロックを解除する	再びロックする
ねじロック りゅうず	 りゅうずが飛び出すまで、りゅうずを左に回す	 りゅうずを押し込みながら右に回し、しっかり締める
ねじロック ボタン	 ボタンのネジを左に回し、止まるまでゆるめる	 ボタンのネジを右に回し、しっかり締める

- りゅうずやボタンがねじロック式ではない場合は、りゅうず・ボタンのロック/ロックを解除することなくお使いいただけます。

■ 回転ベゼルの使いかた

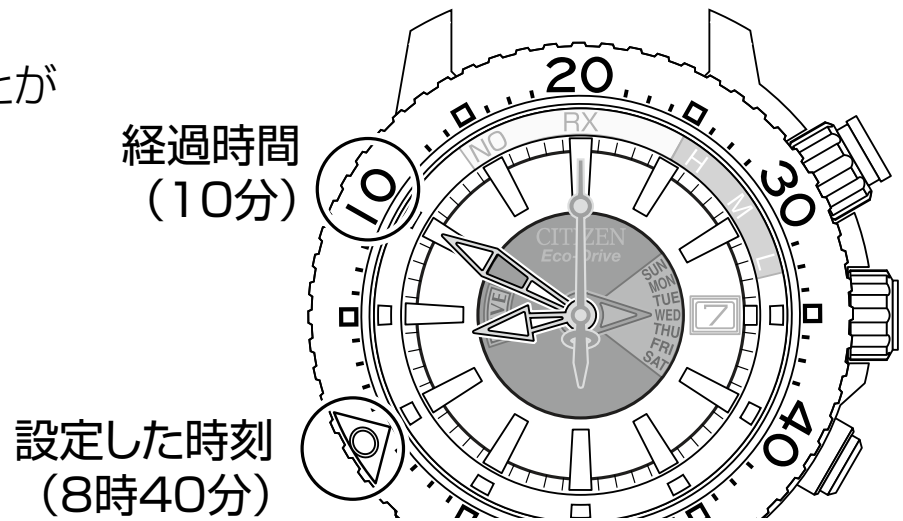
回転ベゼルを使って、ある時点からの経過時間や、決められた時間に対しての残りの時間を簡単に見ることができます。ダイビングの際の潜水時間の目安にお使いいただけます。

<経過時間を測定する>

回転ベゼルの▽印を分針に合わせます。

- その時刻からの経過時間を見ることができます。

例）設定した時刻から10分経過したとき

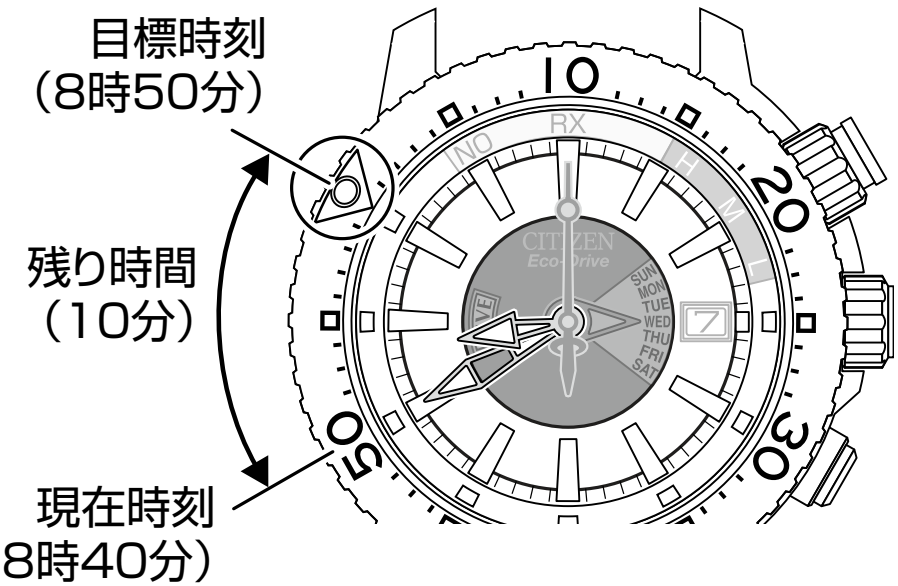


<残り時間を測定する>

回転ベゼルの▽印を目標時刻に合わせます。

- 目標時刻までの残り時間を見ることができます。

例）目標時刻までの残り時間が10分のとき



回転ベゼルは、ダイビングの際の安全のため、左方向にのみ回転します。

標準電波を受信して時刻･カレンダーを合わせる

■ 電波を受信する前に(基準位置の確認)

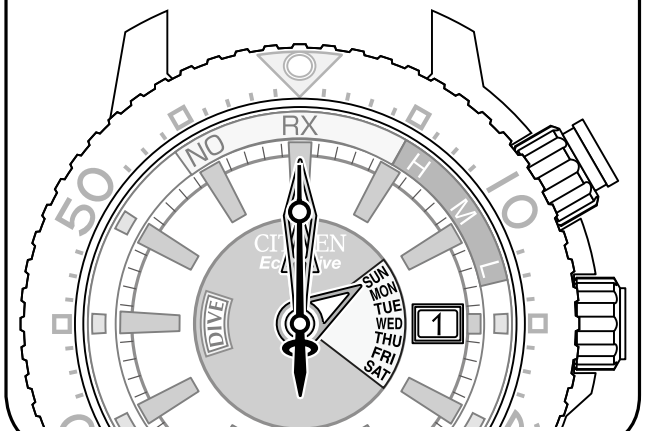
電波を受信する前に基準位置が正しいかどうかを確認してください。

時刻･カレンダーの表示は、「SUN(日曜日)」「0時0分0秒」「1日」の時の表示を基準としています。この時の表示(これを基準位置といいます)がずれていると、電波を受信しても、時刻･カレンダーが正しく表示されません。

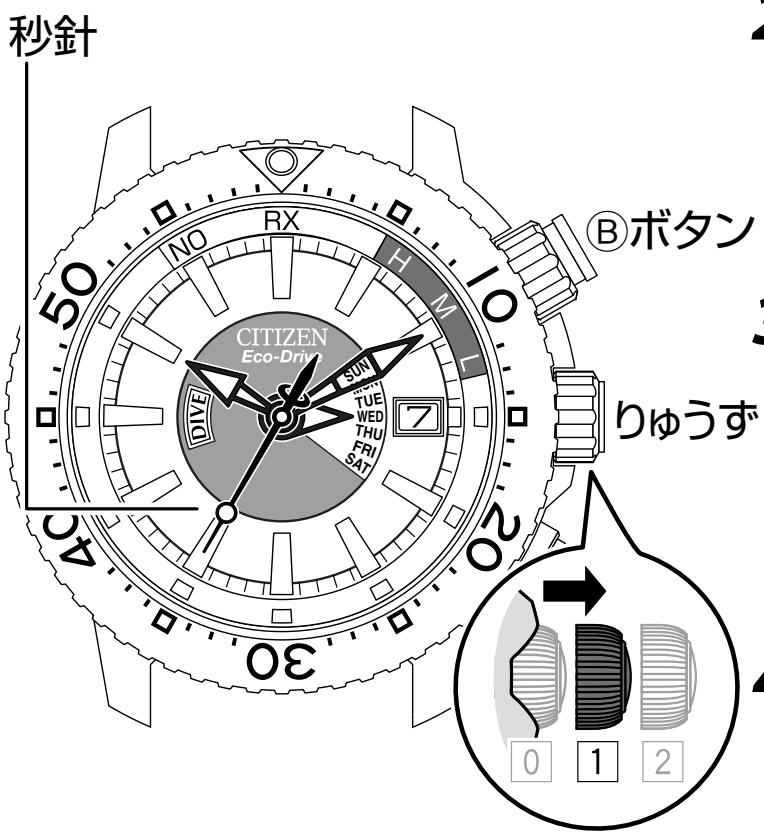
- 基準位置は強い磁気や静電気、衝撃を受けると、ずれることがあります。電波を受信しても時刻･カレンダーが正しく表示されない場合は、基準位置を修正(62ページ)してください。

正しい基準位置

- 曜日針が「SUN」を指している
- 時針･分針･秒針が12時の位置を指している
- 日付が「1」を表示している



<基準位置を確認する>



1. りゅうずを[1]の位置に引き出す

2. Ⓑボタンを5秒以上押し続ける

各針、カレンダーが動き始めたらボタンを離してください。基準位置が表示されるまで（各針、カレンダーが止まるまで）最大7分かかります。

3. 基準位置を確認する

各針とカレンダーはこの時計が記憶している。
基準位置に止まります。正しい基準位置と合っていない場合は基準位置を修正してください。（基準位置の修正 62ページ）

4. りゅうずを[0]の位置に押し込み確認を終了する

全ての針が動き、現在の時刻を表示します。

■ 電波時計について

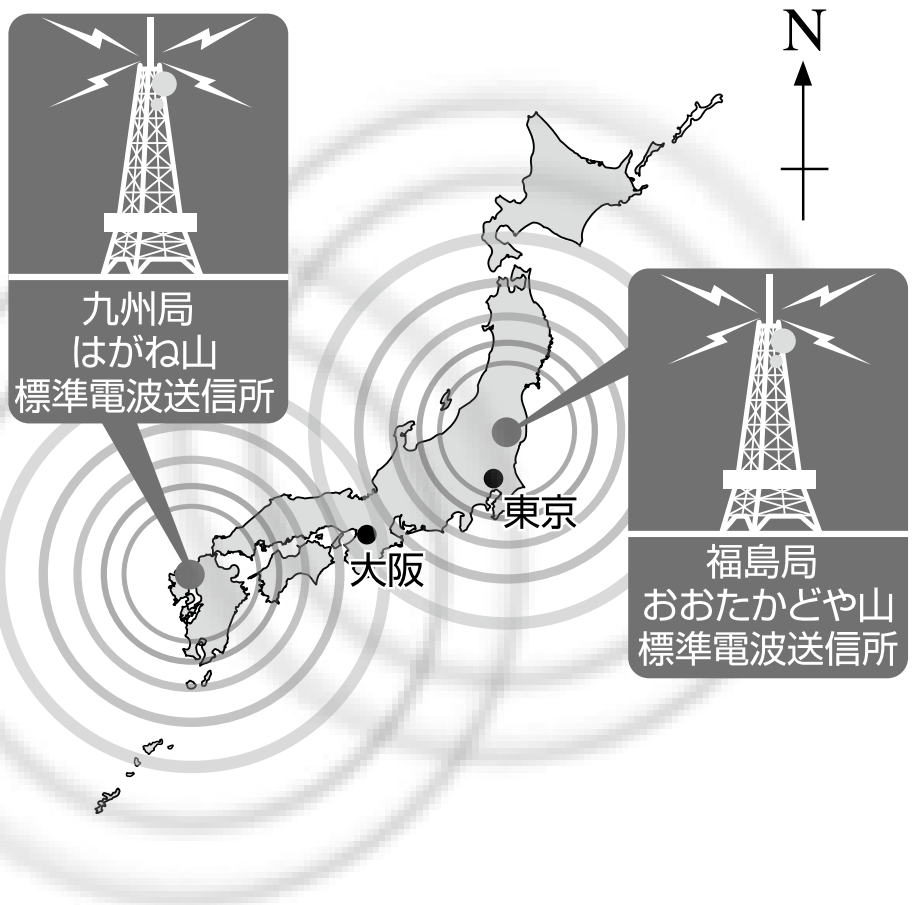
この時計は標準電波送信所から送信される時刻情報を受信して、時刻やカレンダーを自動修正します。また、電波受信結果（成功/失敗）や、電波の受信環境の良さ（受信レベル）をお知らせする機能を搭載しています。

- 電波時計で利用している電波は、ほぼ24時間継続して送信されていますが、保守点検等で送信が中断されることがあります。標準電波の送信状態の確認は、情報通信研究機構･日本標準時プロジェクトのホームページ(http://jjy.nict.go.jp/)をご覧ください。
- 電波を正しく受信しても、受信環境や時計内部処理により、時刻表示にわずかなずれが生じます。
- 標準電波が受信できない場合でも、時計は月差±15秒以内の精度で動き続けます。
- 標準電波は人体や医療機器への影響は一切ありません。

■ 受信可能地域の目安

標準電波送信所は、日本国内に2ヵ所あります（福島局と九州局）。この時計は、電波を受信しやすい局を自動的に選んで標準電波を受信します。

- この時計は、日本国内の標準電波のみ受信します。海外の標準電波は受信できません。

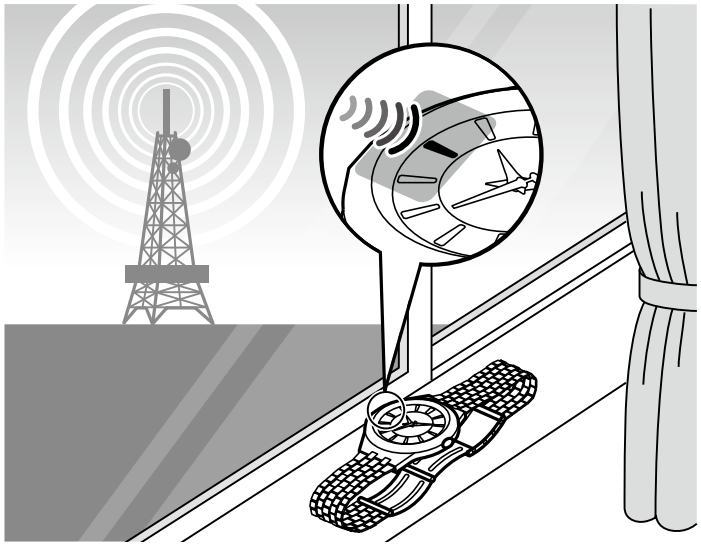


図の範囲内でも、気象･電波環境･受信状態によっては受信ができない場合があります。

■ 受信時の時計の置きかた

時計を腕から外し、窓際など電波を受信しやすい安定した場所に置きます。

- 電波受信用のアンテナは、この時計の9時位置に組み込まれています。時計の9時位置を電波送信所（25ページ）の方向に向けて置いてください。
- 電波の受信中は時計を動かさないでください。

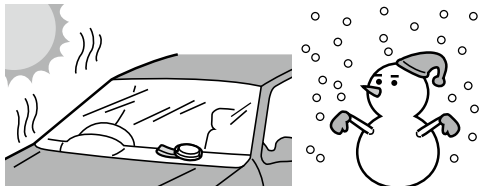


環境によって、受信状態が安定しない場合があります。時計の受信レベル（35ページ）を確認しながら時計の向きや場所を変えて、受信しやすい方向や場所を探してください。それでも受信ができない場合は、「電波の受信が困難なお客様へ」（76ページ）をご覧ください。

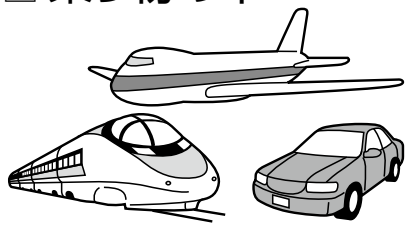
<受信が困難な場所について>

次のような電波ノイズが発生しやすい場所や、標準電波の届きにくい環境では、電波を受信できないことがあります。

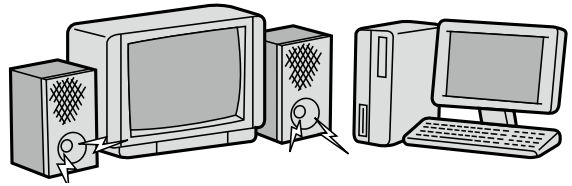
□ 極端に高温や低温の場所



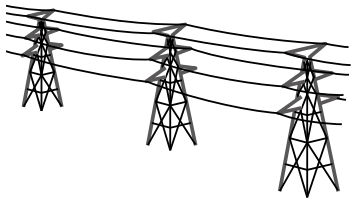
□ 乗り物の中



□ 電化製品やOA機器の近く



□ 高圧線（電線）、電車の架線、飛行場（通信施設）の近く



□ 通信中の携帯電話の近く

□ 鉄筋コンクリートの建物の中、高層ビルや山などの谷間、地下

標準電波の受信は、ノイズが比較的少ない夜間がおすすめです。

標準電波を受信して時刻･カレンダーを合わせる（つづき）

■ 標準電波を受信する

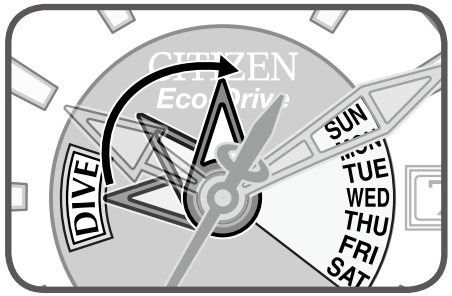
電波を受信するには、次の2つの方法があります。

□ 定刻に自動で受信する定時受信（29ページ）

□ 時刻･カレンダーを合わせたいときに受信する強制受信（30ページ）

注意

電波を受信するときは、ダイブモード（DIVE）がOFFになっていることを確認してください。（51ページ）

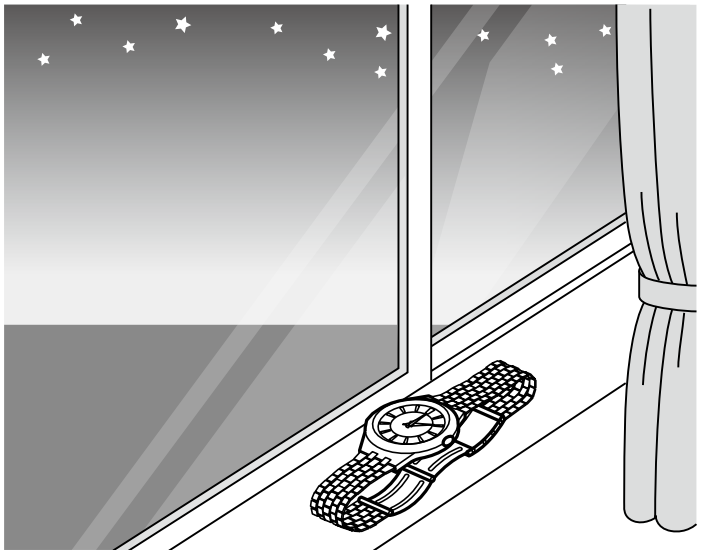


定時受信（自動受信）

「受信時の時計の置きかた」（26ページ）を参考にして、時計を置く

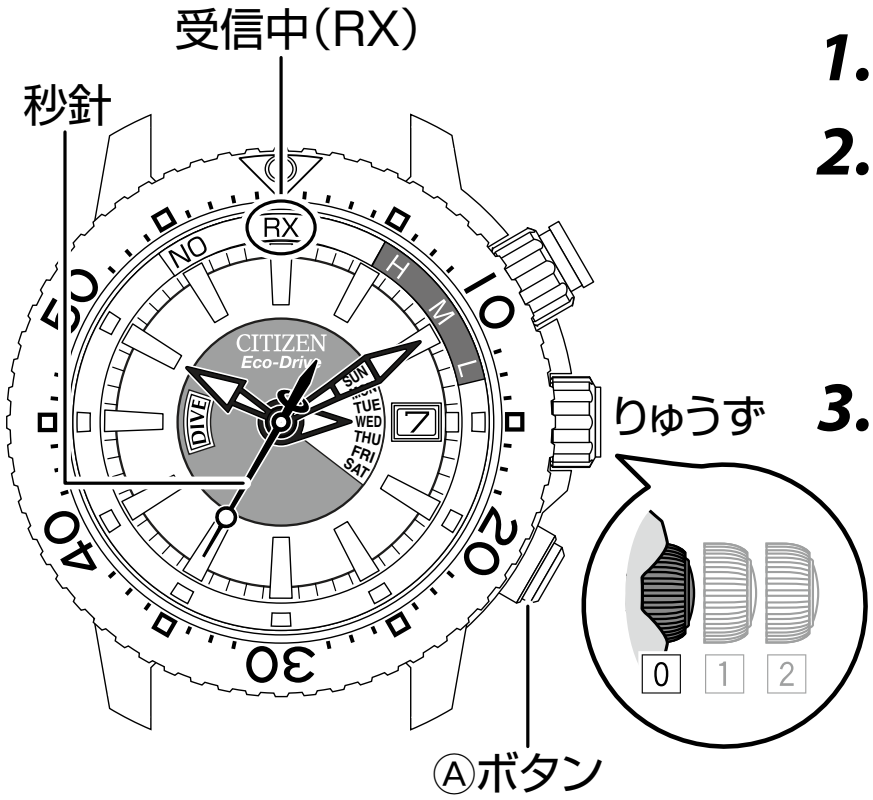
毎日午前2時に自動的に受信が始まります。

- 午前2時に受信ができなかった場合は、午前4時に再度自動的に受信を行います。
- 電波受信中の時計の動きについては、32ページをご覧ください。



標準電波を受信して時刻･カレンダーを合わせる（つづき）

強制受信（手動受信）



1. りゅうずの位置を0にする

2. Ⓐボタンを3秒以上押し続ける

秒針が前回の受信結果（NO、H、M、またはL)を指したあとRXに移動して停止します。

3. 「受信時の時計の置きかた」（26ページ）を参考にして、時計を置く

- 全ての針が動き始めるまで、時計を動かさないでお待ちください。
- 電波受信中の時計の動きについては、32ページをご覧ください。

注意
日付や曜日の表示が切り替わっている間は、電波を受信することができません。表示の切り替えが終わってから受信を行ってください。

■ 電波の受信を中断する

1. Ⓐボタンを3秒以上押し続ける

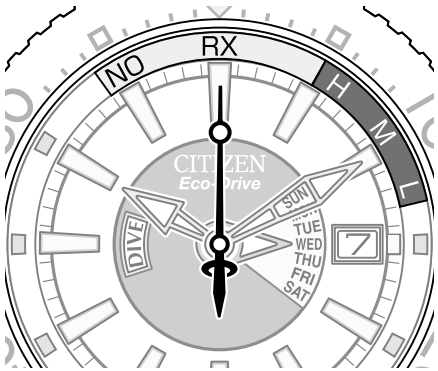
受信を途中で中止して、全ての針が動き、受信前の時刻から経過した時刻を表示します。

注意
受信を中断した場合は、時刻は修正されません。

■ 電波受信中の時計の動き

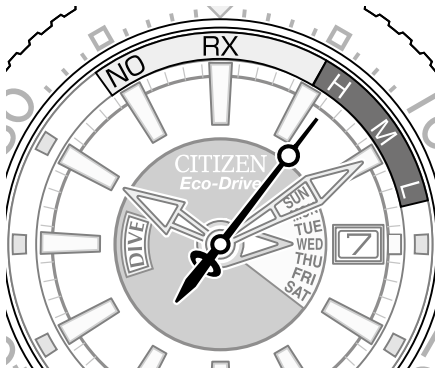
電波の受信中、時計は次のように動作します。

<受信中>



秒針がRXを指します。

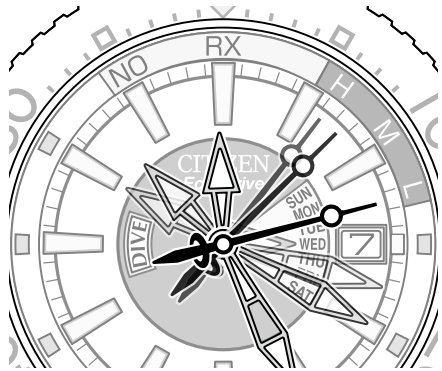
<受信中>



秒針が受信レベルH、M、またはLを指します。

- 状況により、時間がかかる場合があります。（最大約13分）

<受信完了>



全ての針が動き始めます。

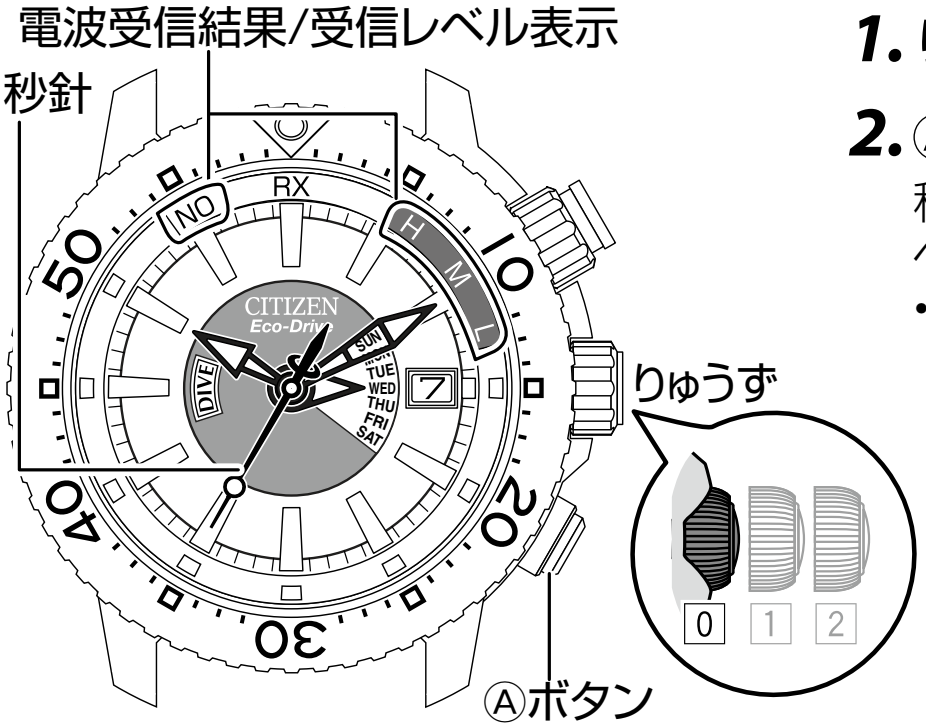
注意
受信中に時計を操作すると受信が中断されます。

受信が完了したら…

受信に成功したときは、各針が正しい時刻を表示します。
受信に失敗した場合は、時刻の修正は行われません。
- 受信結果を確認するには34ページをご覧ください。

■ 受信結果を確認する

前回の電波受信に成功したか失敗したか、また成功したときはその受信レベルを確認することができます。



1. りゅうずの位置を0にする

2. Ⓐボタンを押す

秒針が前回の受信結果および受信レベル（35ページ）を指します。

- 受信を中断したときは、最後に完了したときの結果を表示します。

注意

日付や曜日の表示が切り替わっている間は、受信の確認ができません。表示の切り替えが終わってから受信の確認をしてください。

＜受信結果の見かた＞

H/M/L:受信成功

NO:受信失敗

- NOを指した場合は、受信しやすい方向や場所を探してもう一度受信（30ページ）を行ってください。

＜受信レベルの見かた＞

H (High)	非常に良い環境で受信
M (Middle)	良い環境で受信
L (Low)	あまり良くない環境で受信

- 「H、M、L」は電波の受信レベルを示すものであり、時計の性能とは無関係です。

- 受信が成功しているにもかかわらず正しい時刻が表示されない場合は、基準位置の修正を行ってください。（62ページ）

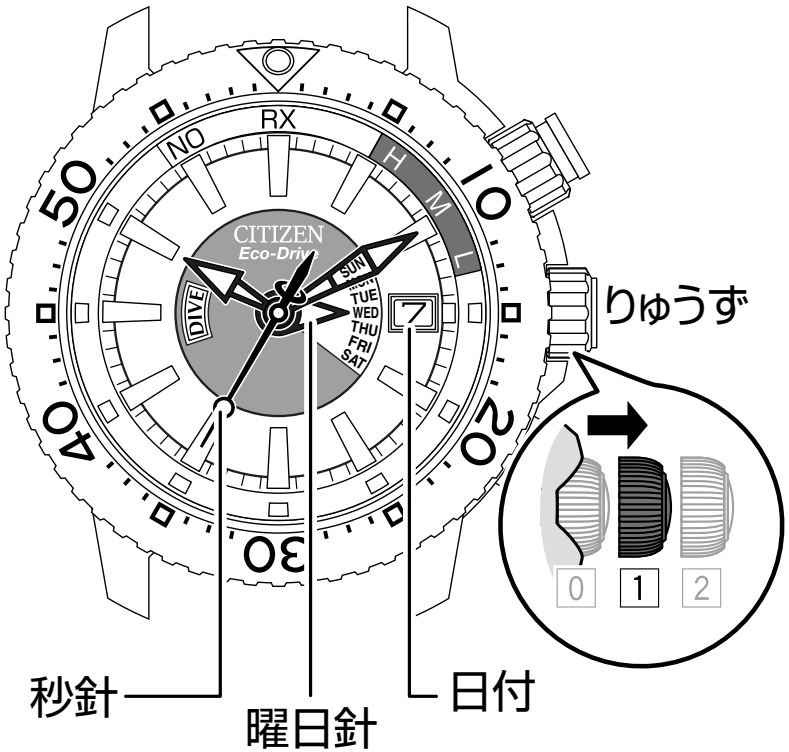
<u>通常の時刻表示に戻すには</u>

Ⓐボタンをもう一度押します。

- 受信結果を表示してから約10秒間経過すると、自動で現在の時刻に戻ります。

カレンダーを見る

カレンダー表示にすることで曜日と日付の表示のほかに、秒針を使って年*·月を見ることができます。



1. りゅうずを1の位置に引き出す

秒針が年*·月を指します。（37ページ）

* この時計は、うるう年からの経過年を、年として表示しています。

通常の時刻表示に戻すには

りゅうずを0の位置に押し込みます。
全ての針が動き、現在の時刻を表示します。

パーペチュアルカレンダー

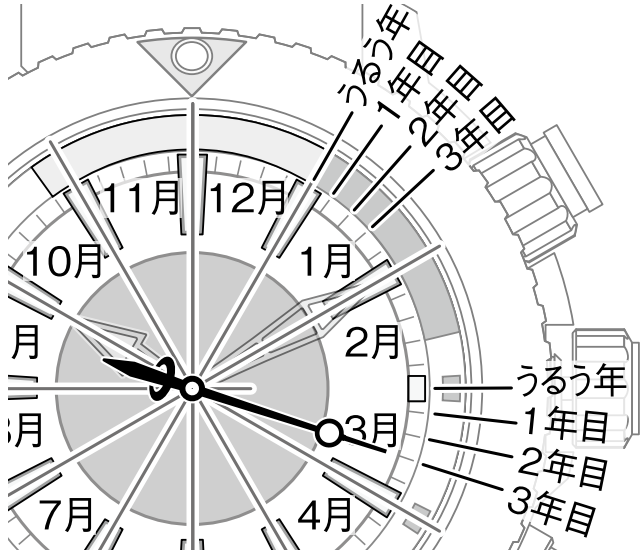
この時計のカレンダーは、月末の日付修正を自動で行います。一度合わせると、2100年2月28日まで修正の必要はありません。

<年・月の見かた>

秒針が指している位置で年(うるう年からの経過年)・月を見ることができます。

- 経過年は右図の各月の表示範囲のどの目盛りを秒針が指しているかで、確認します。

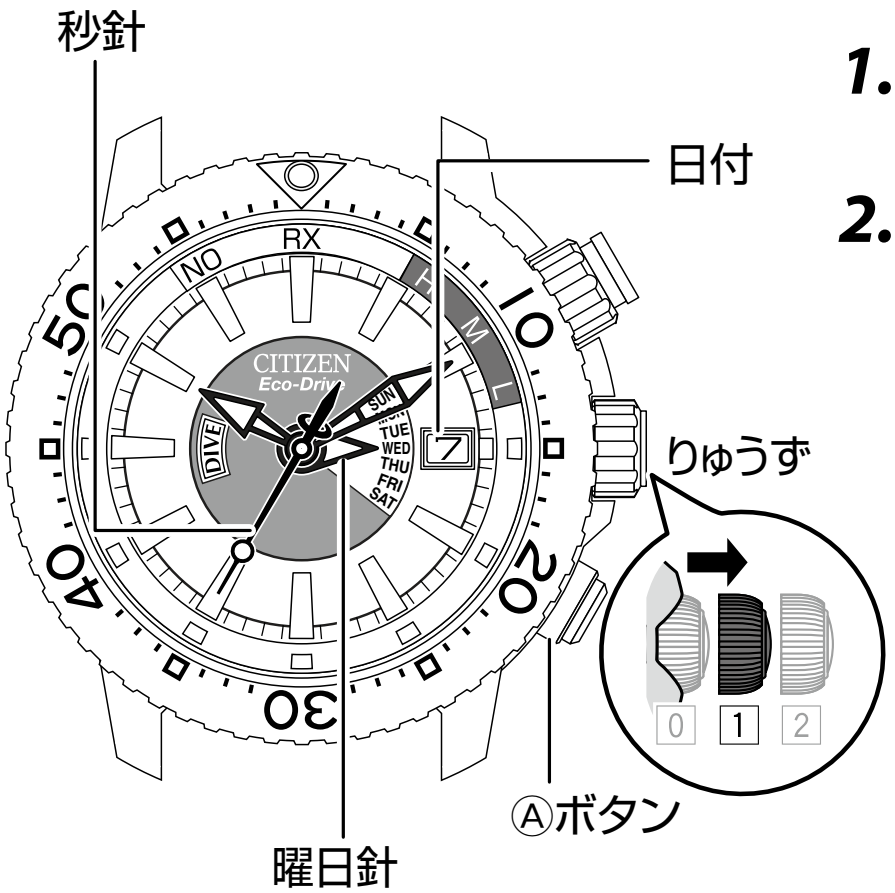
下の表を例に、うるう年からの経過年から、実際の年を読み取ることができます。



例) 2011年の3月を指しているとき

秒針の位置	経過年	年
月の表示範囲の最初の目盛り	0年(うるう年)	2012、2016
1目盛り目	1年	2013、2017
2目盛り目	2年	2014、2018
3目盛り目	3年	2011、2015

カレンダーを合わせる（手動による合わせかた）



1. りゅうずを1の位置に引き出す

秒針が年･月を指します。

2. Ⓐボタンをくり返し押して、合わせたい項目に切り替える

Ⓐボタンを押すごとに、次のように項目が切り替わります。

日付が動く:**日付の設定**

↓

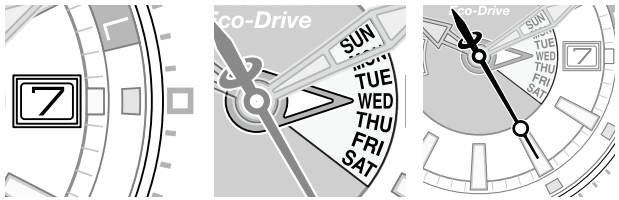
曜日針がわずかに動く:
曜日の設定

↓

秒針が動く:**年･月の設定**

3. りゅうずを回して、日付・曜日・年・月を合わせる

- 年・月の見かたは37ページをご覧ください。



日付　曜日　年・月

- 日付を合わせるときに、りゅうずを素早く連続回転させると、日付が連続で動きます。日付の動きを止めるには、りゅうずを左右どちらかにまわします。

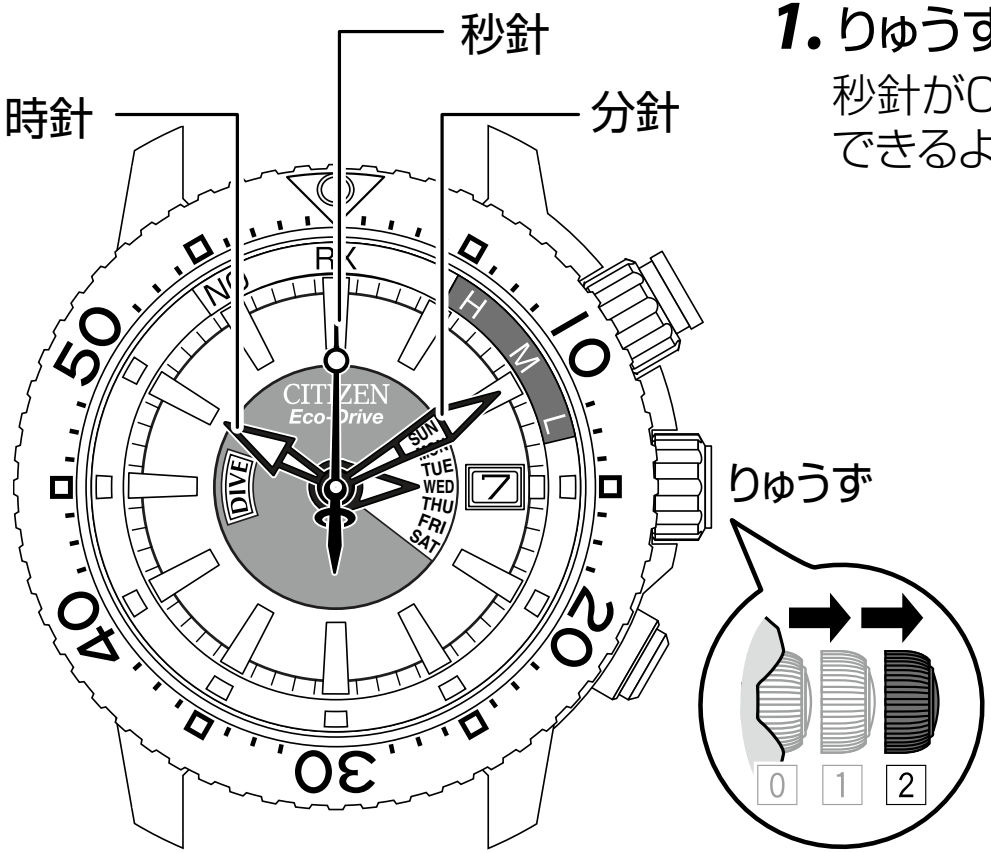
4. 手順2、手順3をくり返して、必要な項目を合わせる

5. りゅうずを0の位置に押し込みカレンダー合わせを終了する

全ての針が動き、現在の時刻を表示します。

注意
表示が動いている間は、次の手順に進めません。

時刻を合わせる（手動による合わせかた）



1. りゅうずを2の位置に引き出す

秒針が0秒の位置を指し、時刻合わせができるようになります。

2. りゅうずを回して時刻を合わせる

時針·分針·秒針が動きます。

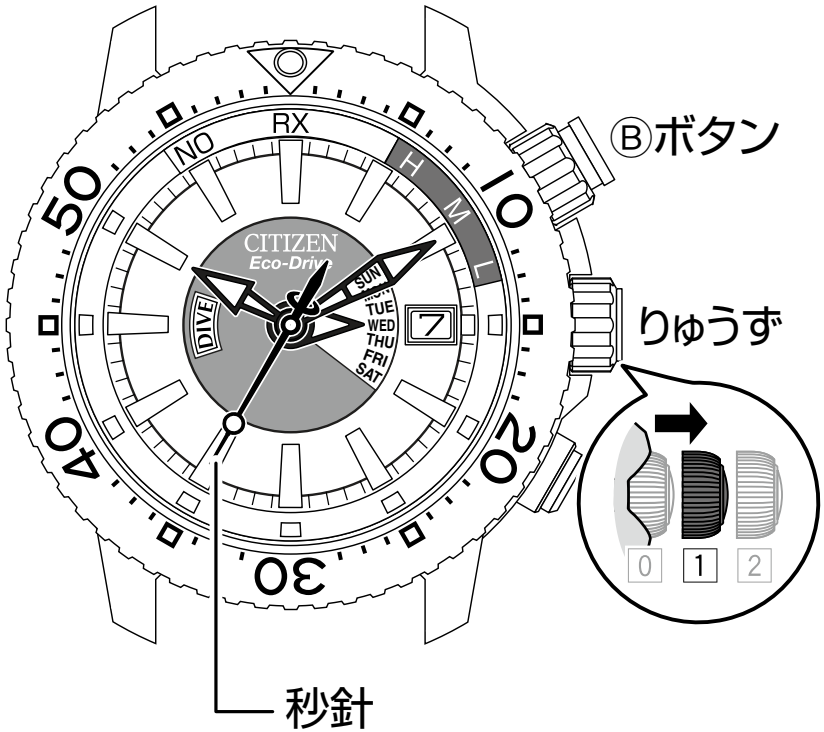
- りゅうずを素早く連続回転させると、各針が連続で動きます。針の動きを止めるには、りゅうずを左右どちらかにまわします。
- 時刻を午前0時に合わせると、日付と曜日の表示が切り替わります。日付·曜日針の動きが止まってから、手順***3***へ進んでください。

3. 時報などに合わせて、りゅうずを0の位置に押し込み、時刻合わせを終了する

全ての針が動き始めます。

海外で現地時刻に合わせる（時差修正機能）

日本との時差がある地域に行ったときに、現地の時刻を簡単に表示させることができます。



1. りゅうずを1の位置に引き出す

秒針が年·月を指します。

2. Ⓑボタンを押す

秒針が現在設定中の時差を指します。

3. りゅうずを回して秒針を動かし、時差を修正する

- 日本時間を標準に、±27時間の範囲で時差を修正することができます。

4. りゅうずを0の位置に押し込み、時差修正を終了する

修正した時差に合わせた時刻が表示されます。

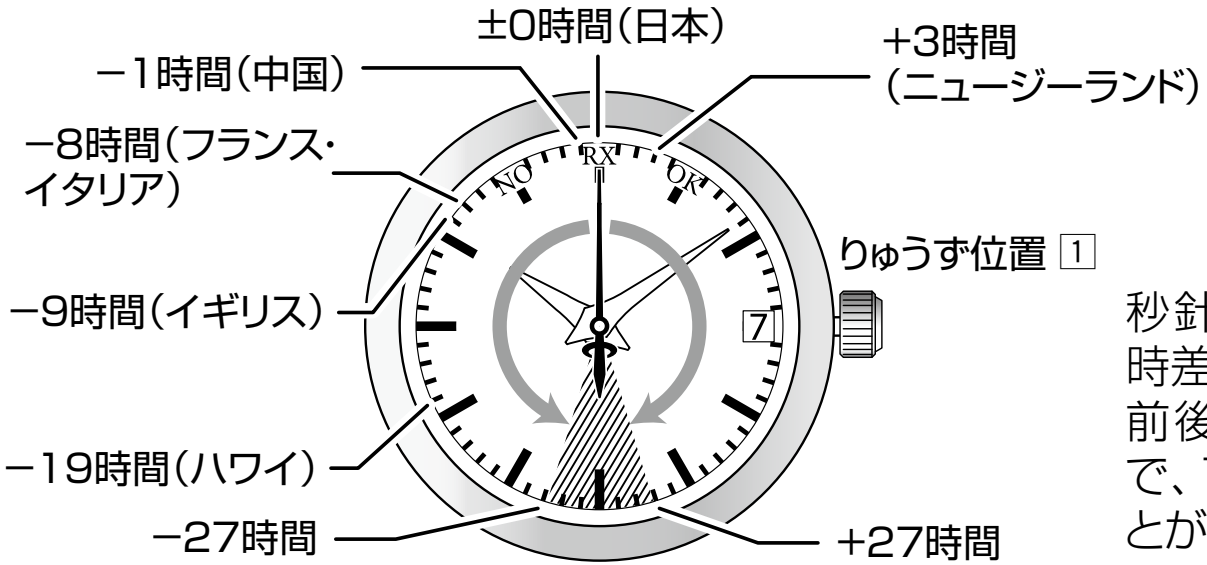
日本時間に戻すには

手順***3***で、秒針を0秒（±0時間）の位置に合わせます。

現在の時差の設定を確認するには

手順***1***、手順***2***を行います。
確認が終わったら、りゅうずを0の位置に押し込みます。

＜日本時間を基準とした時差の見かた＞



秒針の１秒分が１時間の時差に相当します。
前後（±）２７時間の範囲で、１時間ずつ変更することができます。

■ ダイビングでのご使用における注意事項

⚠警告 ダイビングでのご使用にあたって

ダイビングは危険を伴うスポーツです。この時計をダイビングで使用する際は、必ず資格を持ったインストラクターからダイビングに関する教育やトレーニングを受け、安全なダイビングに必要な経験と技術を習得した上で、ルールを守ってご使用ください。レクリエーションダイビングといえども、ダイビングは危険を伴います。不適切または不十分な訓練でダイビングを行うと、死亡事故や重症事故などにつながる可能性があります。

□ ダイビングでのご使用にあたっては、時計の取り扱いと操作を正しく理解し、それらを厳守してください。
この取扱説明書に記載していない取り扱いをした場合には、時計が正しく機能しません。

□ ダイビングの前に、必ず時計の全ての機能が正しく作動するかを点検してください。

□ この時計を使用する場合は、安全のため、他のダイビング機器（ダイブテーブル、残圧計、水深計など）を必ず併用してください。
□ この時計を使用してのダイビングは、水温0℃～+50℃でのレクリエーションダイビング（無減圧潜水）に限られます。
次のダイビングには使用しないでください。
- 上記温度範囲以外でのダイビング
- 減圧潜水
- ヘリウムガスを使用する飽和潜水

□ 無減圧時間に対して常に余裕を持ったダイビングを行ってください。
□ 十分な安全停止、減圧停止を行ってください。
□ 回転ベゼルが正常に回転するか確認してください。

■ ダイビングでのご使用における注意事項（つづき）

⃠禁止 ダイビングでの禁止事項

次のようなときには、絶対にこの時計をダイビングに使用しないでください。

□ 充電不足で秒針が2秒毎に動いているとき。
　充電警告機能が作動しているときは、操作をしてもダイブモードに切り替わりません。
□ 時計が止まったり、異常が生じたとき。
□ 保証温度範囲外での使用。
□ 危険を伴う行動や人体に影響を及ぼす場合。
□ ヘリウムガス雰囲気中(飽和潜水など)での使用。

⚠警告 ダイビングの前に次のことを確認してください

□ ダイビングの前に必ず時計の全ての機能が正しく動作しているか確認してください。

□ バンドが時計本体にしっかり固定されているか。
□ バンドやガラスにヒビ、傷、カケなどの異常がないか。
□ 時刻及びカレンダーが正しくセットされているか。
□ ねじロック式のりゅうず・ボタンがロックされているか。
□ 充電警告機能（53ページ）が働いていないか。

■ ダイビングでのご使用における注意事項（つづき）

⚠警告 ダイビング中は次のことを必ず守ってください

□ 急速な浮上は避けてください。
急速な浮上は潜水病など人体に影響を及ぼします。安全な浮上速度を守ってください。
□ 時計が正しく動作しないときは、使用しないでください。
□ 安全のため、無減圧限界時間に対して余裕を持ったダイビングを行ってください。
□ 安全のため、浮上の際は必ずダイブテーブルに従って安全停止を行うようにしてください。
□ ダイビング中は、時計の操作をしないでください。

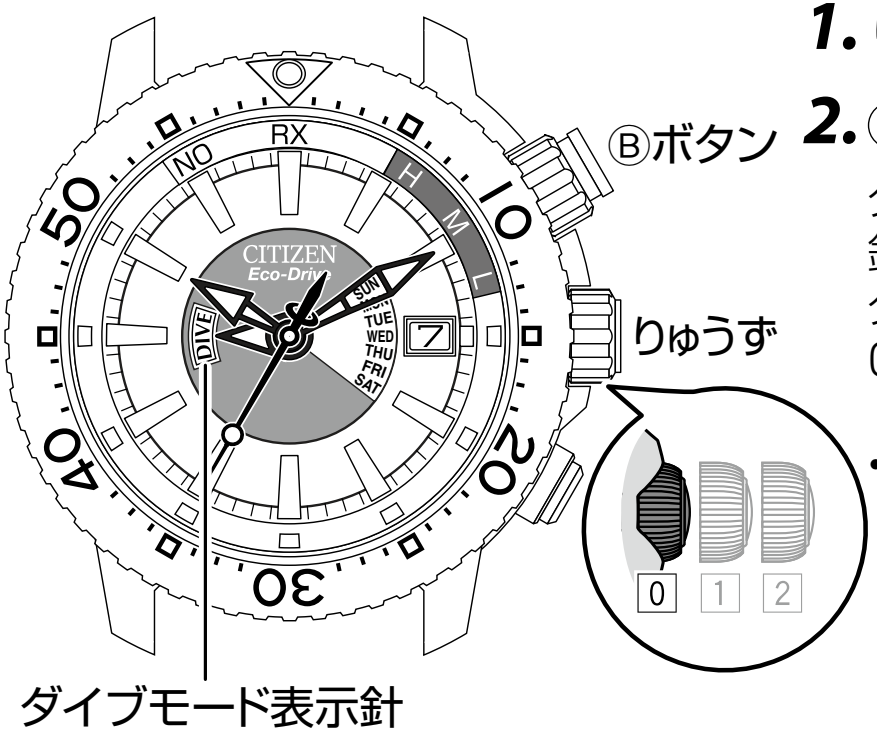
⚠警告 ダイビング中は次のことを必ず守ってください

□ ダイビング後は十分な休息をおとりください。
□ ダイビング終了から24時間以内は、飛行機への搭乗を避けることをおすすめします。
□ 時計に付着した海水や泥、砂などは、真水でよく洗い落とした後、乾いた布などで水分を拭き取ってください。

ダイビングをするときに使う—ダイブモード（つづき）

■ ダイブモードを使う

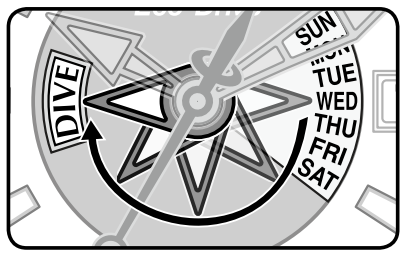
電波受信機能による針の停止を避けるために、ダイビングの際には必ずダイブモードをONにしてください。



1. りゅうずの位置を0にする

2. Ⓑボタンを7秒以上押し続ける

ダイブモード表示針がDIVEを指し、ダイブモードがONになります。



- ダイブモード表示針がDIVEに移動するまでに約1分かかります。

ダイブモードがONになっているときは、電波受信機能は使えません。
- 電波の受信（28ページ）
- 受信結果の確認（34ページ）

ダイブモードをOFFにするには

りゅうずの位置を0に押し込んで、Ⓑボタンを7秒以上押し続けます。
ダイブモード表示針が現在の曜日を指します。

注意

- 充電警告機能（53ページ）が働いているときは、ダイブモードをON/OFFできません。十分に充電してから時計をご使用ください。
- 日付や曜日の表示が切り替わっている間は、ダイブモードをON/OFFできません。表示の切り替えが終わってからダイブモードをON/OFFしてください。
- ダイビングの後は、必ずダイブモードをOFFにしてください。

充電について

■充電する

この時計は、電気エネルギーを蓄える二次電池を内蔵しています。文字板に直射日光や蛍光灯（白色LED灯も含む）の光を当てることにより、充電できます。

充電不足で止まっている時計を充電すると、一度だけ標準電波の自動受信を行います。（復活自動受信）受信しなかった場合は手動受信（強制受信）を行ってください。

時計を快適にお使いいただくには

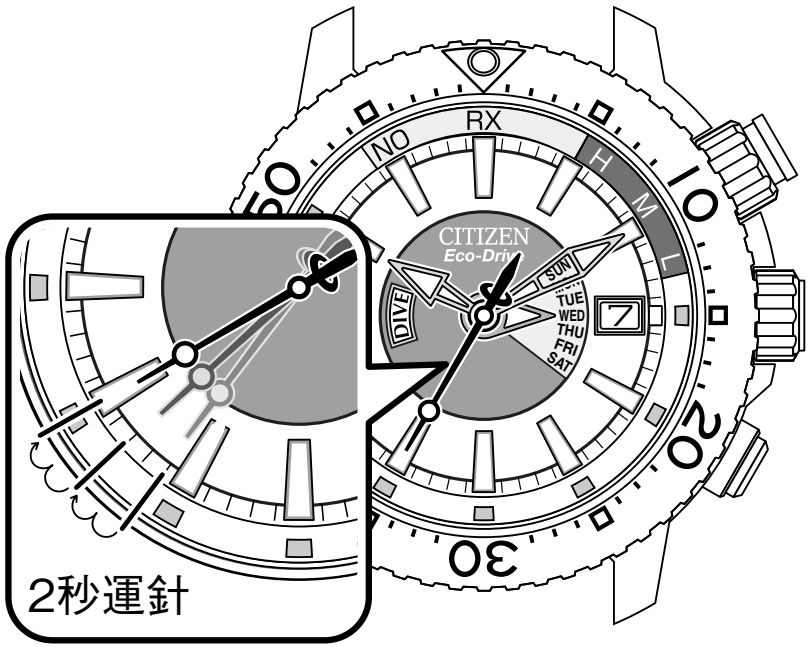
- **月に一度は5～6時間直射日光に当てて充電してください。**
- 時計を外したら、太陽光の当たる窓際などの明るい場所に置いてください。
- 時計を光の当たらない場所で長期保管するときは、保管前に十分に充電してください。

衣服などで時計が隠れて光に当たらないと、十分に充電できないのでご注意ください。

高温下（約60℃以上）での充電はおやめください。

■ 充電不足になると:充電警告機能

充電不足になると「充電警告機能」が働き、秒針が2秒毎に動きます。
文字板を光に当てて充電してください。



- しばらく充電すると、秒針が1秒毎に動くようになります。
- 2秒運針が2日以上続くと、充電不足で時計が停止します。

注意

2秒運針しているときは、時刻は表示されますが、各設定や確認の操作はできません。

充電について（つづき）

■ 充電時間の目安

連続して照射した場合の数値です。
目安としてご利用ください。

環境	照度（ルクス）	充電時間（約）		
		通常に動く状態を1日保つ	時計が停止してから通常に動き出すまで	時計が停止してから充電完了まで
屋外（晴天）	100,000	5分	40分	30時間
屋外（曇天）	10,000	11分	1時間	45時間
30W蛍光灯 20cmの下	3,000	40分	2.5時間	110時間
屋内照明	500	4時間	13時間	—

充電完了後の持続時間（一度も充電しない場合）	約6ヶ月

<充電完了すると:過充電防止機能>

二次電池が完全に充電されると、「過充電防止機能」が働き、それ以上充電されなくなります。
これにより、過剰な充電による二次電池の劣化を防ぎ、時間精度·機能·性能に影響を及ぼすこともありません。

エコ·ドライブ

この時計は、光を電気エネルギーに変換して動く「エコ·ドライブ」を搭載しています。内蔵のソーラーセルが光を電気エネルギーに変換し、二次電池にエネルギーを蓄えます。
また、電池交換がいらない、有害な金属を二次電池に含まないなど、自然環境にも配慮したこの時計は、「エコマーク商品」に認定されています。

パワーセーブ機能

文字板に光が当たらない状態で、時計を一週間以上保管すると、パワーセーブが働き、機能の一部が停止します。
パワーセーブ作動中も精度範囲内で時刻を刻み続けます。

パワーセーブを解除するには

文字板に光を当てます。
パワーセーブ解除後は、強制受信を行ってください。（30ページ）

- パワーセーブが解除されると、全ての針が動き、現在の時刻を表示します。
- 秒針が2秒毎に動いている場合は、充電を続けてください。（52ページ）
- りゅうずやボタンの操作では、パワーセーブを解除することはできません。

困ったときは

困ったときは以下の項目をご確認ください。

時計の状態	対処方法	詳細ページ
電波受信がうまくできない		
受信を開始しない、または受信の確認ができない	ダイブモードをOFFにする	51
受信可能地域内で受信が成功しない	電波を遮るものや、ノイズが発生するものを避けて、時計の9時位置を送信所に向けて受信する	26
	受信が終わるまで、時計を動かさない	26
	「シチズンお客様時計相談室」にお問い合わせください。	77
受信はできるが正しい時刻・カレンダーが表示されない	時差設定を確認する	42
	基準位置を確認・修正する	62

時計の状態	対処方法	詳細ページ

ダイブモードがONにならない

ダイブモード表示針 が“DIVE”に移動しない	基準位置確認や、日付や曜日の変更が終わってからONにする	50
	秒針が2秒毎に動いている場合は、充電する	53

針の動きがおかしい

秒針が2秒毎に動く	充電する	53
全ての針が停止している	りゅうずの位置を0にする	41
	充電する	52
時計をケースなどから出した途端に針が高速で回りだす	パワーセーブの解除中です。時刻が表示されるまでお待ちください。	57

時計の状態	対処方法	詳細ページ
カレンダーがおかしい		
日付または曜日が間違っている	電波を受信して時刻･カレンダーを合わせる	30
	カレンダーを合わせ直す	38
	時差設定を確認する	42
	基準位置を確認･修正する	62
曜日が確認できない	ダイブモードをOFFにする	51
昼の12時頃に日付が変わる	電波を受信して時刻･カレンダーを合わせる	30
	時刻を12時間ずらす	40

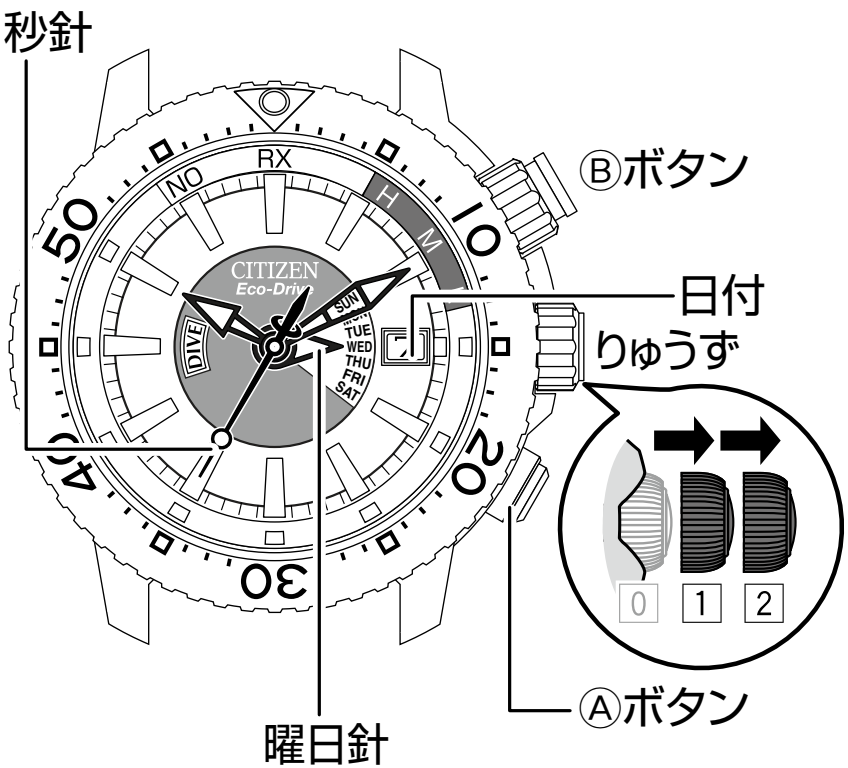
時計の状態	対処方法	詳細ページ

その他

「困ったときは」（58～61ページ）の対処にしたがっても、時計が正しく動かない	お買い上げ店または弊社お問い合わせ窓口へご相談ください。	77
「充電時間の目安」（54ページ）にしたがって充電しても、すぐに止まる		

基準位置を修正する

電波を受信しても時刻やカレンダーが正しく表示されない場合は、時計の基準位置を修正してください。



1. りゅうずを[1]の位置に引き出す

秒針が年･月を指します。

2. Ⓑボタンを5秒以上押し続ける

基準位置が表示されます。(表示されるまでに最大7分かかります。)

- 正しい基準位置(「SUN」「0時0分0秒」「1日」)を指しているときは手順***7***に進みます。

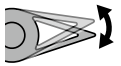
3. りゅうずを[2]の位置に引き出す

秒針が0秒の位置を指し、基準位置が修正できるようになります。

4. Ⓐボタンをくり返し押して、修正したい項目に切り替える

Ⓐボタンを押すごとに、次のように修正する項目が切り替わります。

曜日針がわずかに動く:
曜日針の修正



↓

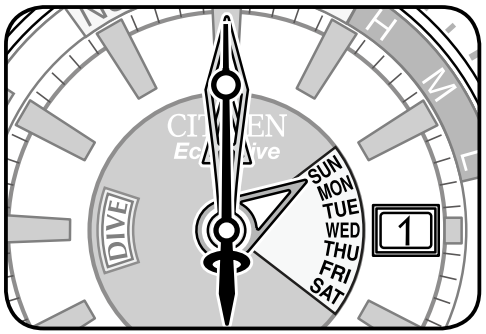
秒針が動く:**時刻の修正**

↓

日付が動く:**日付の修正**

5. りゅうずを回して曜日・時刻・日付を「SUN」「0時0分0秒」「1日」に合わせる

- りゅうずを素早く連続回転させると、各針・日付が連続で動きます。針・日付の動きを止めるには、りゅうずを左右どちらかにまわします。



6. 手順*4*と手順*5*をくり返して、全ての項目を修正する

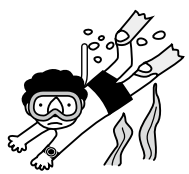
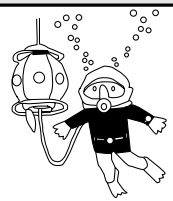
7. りゅうずを0の位置に押し込み、基準位置の修正を終了する

全ての針が動き、現在の時刻を表示します。

使用上の注意

⚠警告 防水性能について

この時計は200m防水時計です。空気ボンベを使用した空気潜水（スキューバ潜水）には使用できますが、ヘリウムガスを使用する飽和潜水などには使用できません。

	使用例					
						
表示 ケース （裏ぶた）	水がかかる程度の使用（洗顔、雨など）	水仕事や一般水泳に使用	スキンダイビング、マリンスポーツに使用	空気ボンベを使用するスキューバ潜水に使用	ヘリウムガスを使用する飽和潜水に使用	水滴がついた状態でのりゅうずやボタンの操作
AIR DIVER's 200m	○	○	○	○	×	×

□ この時計に使用されているパッキングは消耗品のため、長期間のご使用により劣化します。パッキングが劣化すると、防水性能を維持できなくなり、時計内部に水が入って時計の機能異常や動作停止の原因となる場合があります。
2～3年毎に弊社で点検(有償)をお受けになり、必要に応じてパッキングやガラスなどの交換を行ってください。
□ 時計内部に水が入ったり、ガラス内面にクモリが発生し長時間消えない場合は、そのまま放置せず、お買い上げ店または弊社お問い合わせ窓口へ修理･点検をご依頼ください。
□ 時計内部に海水が入った場合は、箱やビニールに入れてすぐに修理をご依頼ください。時計内部の圧力が高まり、部品（ガラス、りゅうず、プッシュボタンなど)が外れる恐れがあります。
□ 防水性能確保のために、確実にりゅうずを押し込んでからご使用ください。
ねじロックりゅうずモデルの場合は、必ずりゅうずをロックしてください。
□ 時計が濡れているときは、りゅうずを操作しないでください。

⚠警告 二次電池の取り扱いについて

□ 時計から二次電池を絶対に取り出さないでください。
やむを得ず電池を取り出した場合は、誤飲防止のため、幼児の手の届かないところに保管してください。

□ 万一、二次電池を飲み込んだ場合は、ただちに医師に相談して治療を受けてください。

⚠注意 時計は常に清潔に

□ 金属部分の腐食や、付着した汗･汚れ･ほこりで衣類の袖口などを汚す場合があります。常に清潔にしてご使用ください。

□ バンドは多少余裕を持たせ、通気性を良くしてご使用ください。

□ 皮革バンドは汗や汚れにより色落ちする場合があります。乾いた布で拭くなど常に清潔にしてご使用ください。

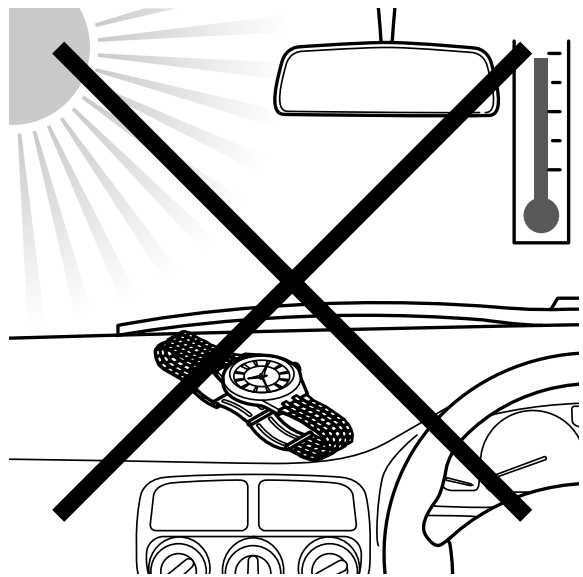
⚠注意 充電上の注意

□ 充電の際に時計が高温になると、外装部品の変色や変形及びムーブメント部品の故障などの原因となります。

□ 高温下（約60℃以上）での充電はおやめください。

例）

- 白熱灯やハロゲンランプなど、高温になりやすい光源での充電
- 車のダッシュボードなど、高温になりやすい場所での充電



⚠注意 携帯時の注意

＜温度について＞

□ −10℃〜+60℃の温度範囲外では、時計が停止したり、機能が低下する場合があります。製品仕様の作動温度範囲外でのご使用はおやめください。

＜磁気について＞

□ アナログ式クオーツ時計は、磁石を利用した「ステップモーター」で動いており、外部から強い磁気を受けると、モーターの動きがみだれて正しい時刻を表示しなくなる場合があります。磁気の強い健康器具（磁気ネックレスや磁気健康腹巻）、冷蔵庫のマグネットドア、バッグの留め具、携帯電話のスピーカー部、電磁調理器などには近づけないでください。

＜静電気について＞

□ クオーツ時計に使われているICは、静電気に弱い性質を持っています。強い静電気を受けると正しい時刻を表示しない場合がありますので、ご注意ください。

＜ショックについて＞

□ 床面に落とすなどの激しいショックを与えないでください。

＜化学薬品･ガス･水銀について＞

□ 化学薬品やガスの中でのご使用はおやめください。シンナーやベンジンなどの各種溶剤及びそれらを含有するもの（ガソリン･マニキュア･クレゾール･トイレ用洗剤･接着剤など）が時計に付着すると、変色･溶解･ひび割れなどを起こすことがあります。また、体温計などに使用されている水銀に触れたりすると、ケースやバンドが変色することがありますのでご注意ください。

＜その他＞

□ ウレタンバンドの場合は、衣類などの染料や汚れが付着し、除去できなくなることがあります。色落ちする衣類やバッグなどと一緒に使用するときはご注意ください。また、ウレタンバンドは劣化により変色、ひび割れを起こします、ただちにお取替えください。

□ バンドの中留め構造によっては、着脱の際に爪を傷つける恐れがありますのでご注意ください。

時計を末永くお使いいただくために

日常のお手入れ

- りゅうずやプッシュボタンを長期間動かさないままにしていると、ゴミや汚れが付着して操作ができなくなることがありますので、ときどきりゅうずを空回りさせたり、プッシュボタンを押してください。
- ケースやガラスに付着した汚れや汗などの水分は、柔らかい布で拭き取ってください。
- 金属バンド・プラスチックバンド・ゴムバンドは水で汚れを洗い落としてください。金属バンドのすき間につまったゴミや汚れは、柔らかいハケなどで取り除いてください。
- 溶剤類（シンナーやベンジンなど）の使用は、変質の恐れがありますのでおやめください。

保管について

- 時計を長期間ご使用にならないときは、汗･汚れ･水分などをよく拭き取り、高温･低温･多湿の場所を避けて保管してください。
- 時計を長期間ご使用にならないときは、充電不足にならないように、できるだけ光が当たる場所で保管してください。

夜光付き時計の場合は

時計の文字板や針には、放射性物質などの有害物質を一切含まない、人体や環境に安全な物質を使用した蓄光塗料が使用されています。
この塗料は太陽光や室内照明などの光を蓄え、暗い所で発光します。

- 蓄えた光を放出させるため、時間の経過とともに少しずつ明るさ（輝度）は落ちていきます。
- 光を蓄えるときの光の明るさや光源からの距離、光の照射時間などによって発光する時間に誤差が生じます。
- 光が十分に蓄えられていないと、暗い場所で発光しなかったり、発光してもすぐに暗くなってしまう場合がありますのでご注意ください。

保証とアフターサービス

<保証について>

この時計のバンドを除く全ての修理は「メーカー修理」となります。
正常なご使用で、保証期間内に万一故障が生じた場合には、保証書に従い、無料修理いたします。

<修理用部品の保有期間について>

当社は、時計の機能を維持するための修理用部品を通常7年間を基準に保有しております。ただし、ケース·ガラス·文字板·針·ボタン·バンドなどの外装部品については、外観の異なる代替部品を使用させていただく場合がありますので、予めご了承ください。

<修理可能期間について>

当社の修理用部品の保有期間中は修理が可能です。ただし、ご使用の状態·環境でこの期間は著しく異なります。修理の可否については、現品ご持参の上販売店でご相談ください。なお、長期間のご使用による精度の劣化は、修理によっても初期精度の復元が困難な場合があります。

<ご転居･ご贈答品の場合>

保証期間中にご転居されたり、ご贈答品のためにご使用の時計がお買い上げ店のアフターサービスを受けられない場合には、弊社お問い合わせ窓口へご相談ください。(77ページ)

<定期点検(有償)について>

安全に長くご使用いただくために、2～3年に一度、点検(有償)を行ってください。
防水時計の防水性能は経年劣化しますので、防水性能を維持するために、部品の交換が必要です。必要に応じてパッキングやバネ棒などの交換を行ってください。
部品交換の際は、純正部品とご指定ください。交換だけでなく他の部品の点検または修理を行う必要がある場合もありますので、交換修理料金など、詳しくはお買い上げ店または弊社お問い合わせ窓口へご相談ください。(77ページ)

<その他お問い合わせについて>

保証や修理、その他不明な点がございましたら、お買い上げ店または弊社お問い合わせ窓口へご相談ください。(77ページ)

製品仕様

機種	H112
型式	アナログソーラーパワーウォッチ
時間精度	非受信時平均月差±15秒　常温(+5℃～+35℃)携帯時
作動温度範囲	−10℃～+60℃
表示機能	時刻:時·分·秒 カレンダー:うるう年からの経過年·月·日·曜日
持続時間	充電完了後、充電しないで時計が停止するまで:約6ヶ月 (パワーセーブが作動しているとき:約2.5年) 充電警告が始まってから時計が停止するまで:約2日
使用電池	二次電池　1個

付加機能	• 電波受信機能(定時受信/復活自動受信/強制受信) • 受信局自動選択機能(日本標準電波専用) • 受信中表示機能(RX) • 受信中レベル表示機能(H/M/L) • 受信結果確認機能(H/M/L、またはNO) • 時差修正機能 • ダイブモード • パワーセーブ機能(節電状態) • 過充電防止機能 • 充電警告機能(2秒運針) • Perfex(パーフェックス) —JIS1種耐磁/衝撃検知機能/針自動補正機能 • パーペチュアルカレンダー(2100年2月28日まで) • 基準位置確認･修正機能

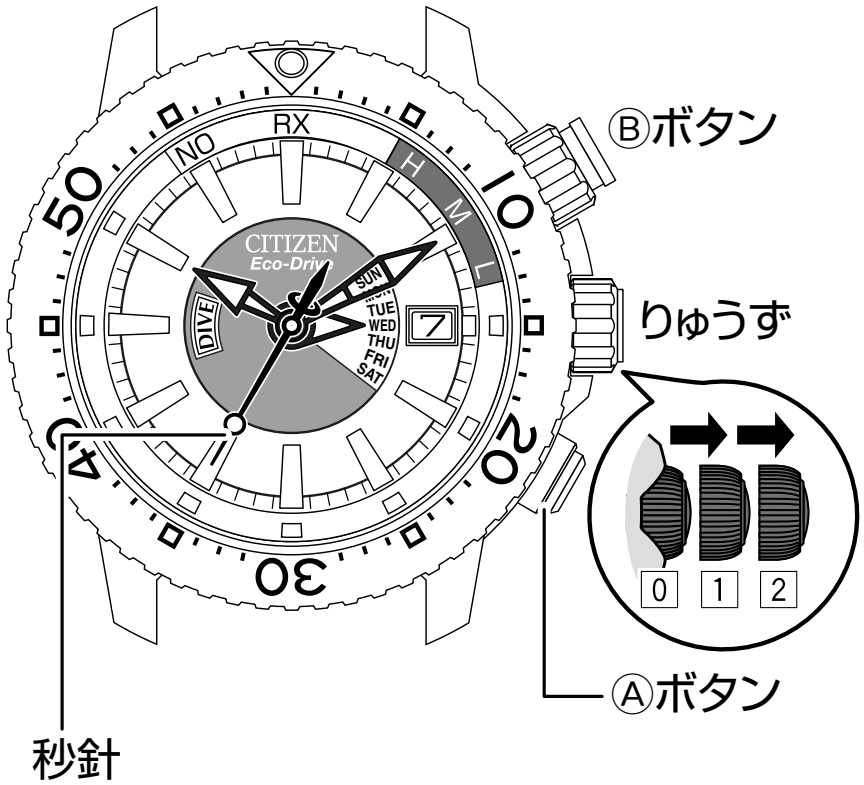
製品仕様は、改良のため、予告なく変更することがあります。

電波の受信が困難なお客様へ

電波の受信は、そのときの気象状況や電波環境によって、困難な場合があります。
電波受信をお試しいただいても、万一受信に成功されないという方には、電波送信所からの電波侵入方向を示した地図をお作りするなどのサポートをしています。
受信が困難なお客様は「シチズンお客様時計相談室」（77ページ）へお問い合わせください。なお、お客様からお預かりした個人情報は、受信に関するサポートのみに使用し、それ以外の目的には使用いたしません。

電波受信がうまくいかないお客様には、電波送信所の方向を示した地図をお送りいたしております。
「シチズンお客様時計相談室」（TEL: 0120-78-4807）へご依頼ください。

機能早見表



機能
ダイブモードをON/OFFする
電波を受信する（強制受信）
電波の受信結果を確認する
海外で現地時刻に合わせる（時差修正）
カレンダーを見る
カレンダーを合わせる（手動による合わせかた）
時刻を合わせる（手動による合わせかた）

	りゅうずの位置	ボタン/りゅうずの操作	詳細ページ
	0	Ⓑボタンを7秒以上押し続ける。	50
	0	Ⓐボタンを3秒以上押し続ける。	30
	0	Ⓐボタンを押す。	34
	1	Ⓑボタンを押して現在の時差設定を表示し、りゅうずを回す。	42
	1	—	36
	1	Ⓐボタンをくり返し押して設定したい項目（日付・曜日・年・月）に切り替え、りゅうずを回す。	38
	2	りゅうずを回す。	40

HAR14

CT066

http://citizen.jp/

Cal.H112